



# エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2021年12月1日（第87号）

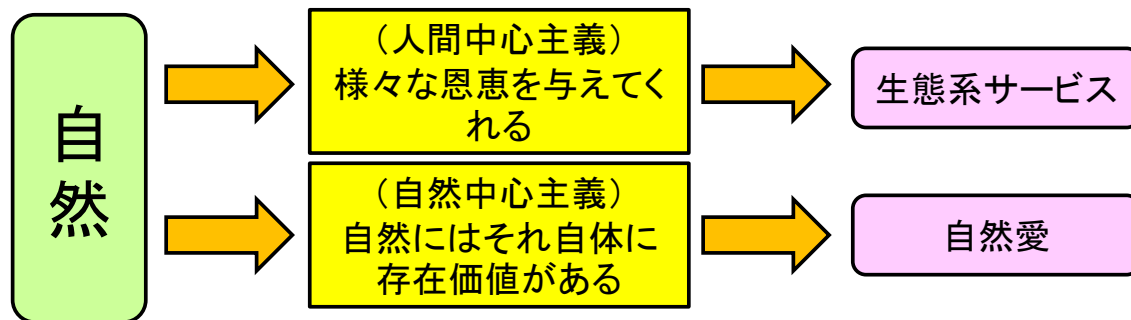
編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL (88) 6639 FAX (88) 3231

## 自然の価値

岩瀬剛二（エコパートナーシップうじたわら運営委員、元帝京科学大学教授）

「自然」とは、定義の難しいことばですが、ここでは、人の手があまり加わっていない環境としておきます。宇治田原町には多くの自然が残されていて、都会に住む人にとってはうらやましい環境であっても、元々、宇治田原町に住



んでいる人には、ほとんど価値のないものとみなされがちです。そこで、今回は自然にも価値があるということを紹介いたしますので、開発せずに自然を残すことの大切さについても、是非、ご理解願えればと思います。

図1. 自然の捉え方の違いによる自然に対する対応

自然の捉え方には大きく分けて2種類存在します(図1)。多くの人がある程度は持っていると考えられる「自然愛」と、欧米から導入されてきた「生態系サービス」という考え方です。「生態系サービス」とは、生物や生態系に由来し、人類の利益になることを言い、次の4種類の機能に分けられています。

- 1) 供給サービス: 人間に直接利益をもたらす商品の提供
- 2) 調整サービス: 人間にとって有用な状態に生態系を調節する機能のことで、調節サービスとも言う。
- 3) 文化的サービス: 人間にとって有用な非物質的な価値の提供
- 4) 基盤サービス: 上記のサービスを維持するための基盤機能

### 1) 供給サービス

宇治田原町が海辺にあれば漁業による魚介類の提供という大きな価値が容易に理解されますが、森林地域である宇治田原町では、自給自足を行っていた時代にさかのぼれば、燃料としての薪や炭、肥料としての堆肥、食料としての山菜や野生動物の肉などがあったわけですが、現代では、どれもほぼ必要なくなっています。

### 2) 調整サービス

森林地域である宇治田原町では、森林による空気の浄化や森林によって蓄積される水などがあり、また、果樹の栽培が盛んな地域であれば、ミツバチやハナバチなどの訪花昆虫による受粉が大きな利益をもたらすことが容易に理解されますが、お茶の栽培が盛んな宇治田原町では、森林からやってくるガやカメムシなどの害虫による被害が大きく、利益よりも損害の方が大きいとされてしまいがちです。

### 3) 文化的サービス

ハイキング、キャンプ、バードウォッチング、釣り、環境教育、科学研究などに場所の提供を行うことですが、宇治田原町には「くつわ池自然公園」ありますので、ある程度は理解されるのではないかと思います。しかし、地域の住民や都会の人を相手に自然解説を行うようなビジターセンター機能をもった施設がありませんので、是非、つくるように働きかけていきたいと考えています。

### 4) 基盤サービス

上の3つのサービスを提供するための基盤で、落ち葉などの分解による土壌形成作用、植物による光合成、微生物の様々な作用などが含まれます。

以上、生態系サービスについて簡単に紹介してきましたが、宇治田原町にとっては、3) 文化的サービスの機能に重点をおいて、自然にも価値があるということをご理解いただければと思います。次回は「自然に対する人間の責任」について紹介したいと考えています。

# 再エネ由来電力への切り替え

温室効果ガスの排出量を抑制する手段のひとつとして、太陽光など再生可能エネルギーにより発電された電気の使用が考えられますが、京都府や宇治田原町では、再エネ電力の導入を促す施策を実施しています。

## ●「EE電(再エネ電力グループ購入事業)」

京都府と京都市が共同で府民・市民を対象に、再エネ由来電力の共同購入事業参加登録者を募集中。

登録者には切り替え電力の料金プランが提示されるため、切り替えを判断した場合は事業事務局が電力切り替えをサポート。(※切り替えは料金プラン提示後に判断するので、登録＝切り替えではない)

- ・再エネ由来 100%の電力
  - ・福島県産再エネ電力も使用し復興に貢献
  - ・過去の実施分では年間電気代が1万円以上節約
  - ・登録募集: 令和4年2月28日まで
  - ・対象: 府内の住宅、商店、小規模オフィス
  - ・問い合わせ先: TEL 0120-457-200
- <https://group-buy.jp/energy/kyoto/home>

## ●「初期費用0円ソーラー」

自宅に太陽光発電設備と蓄電設備を設置する場合、200～300万円の費用がかかります。京都府では事業者が太陽光発電設備を設置してもらうことで住民の設置にかかる初期費用が0円となる事業を実施しています。

自宅に設置された設備のメンテナンスは設置事業者が行い、一定期間リース料や電気代を支払った後は設備の所有権が利用者に移ります。

- ・設置にかかる費用が不要
  - ・京都府が設置事業者に10万円を補助すると、その分が利用者に還元される
  - ・停電しても、発電時は非常用電源として利用が可能
  - ・0円ソーラープラットフォーム
- <https://kyoto-pv-platform.jp/>

## ●「家庭用太陽発電・蓄電設備設置補助金」

自宅に太陽光発電と蓄電設備を同時に設置した場合に町から補助金を交付。

太陽光発電設備: 公称出力1kwあたり1万円(限度額4万円)

蓄電設備: 蓄電容量1kwhあたり2万円(限度額12万円)

※今年度分の申請受付は12月末まで

- ・電力需給開始日から6か月申請可能
  - ・今年度の申請可能件数はあと2件
  - ・問い合わせは役場建設環境課へ
  - ・電話: 88-6639
- 町HPTopp→環境衛生→地球温暖化対策  
→家庭用太陽光発電・蓄電設備設置補助金

## 「枕の掃除」 芦原 昇

夜中に目が覚め、枕のシーツがくしゃくしゃになっていたの、シーツを直し、枕の周辺を少し片づけてみた。

枕の掃除をしていて、語呂合わせではないが、枕草子を思い出した。

随筆は小説と違い、見聞きしたものを自由形式で書き綴る。1,200年前に見聞きしたものを自分の感性で書き留めた清少納言は日本の誇りである。

春はあけぼのに始まり、日本の格式の素晴らしい点を、見事にあぶりだしている。

今の季節、秋は夕暮れに趣があり、カラスの群れや、虫の音に心をときめかしている。カラスはごみをあさるイメージが定着し、平安時代よりは格を落としてはいるが、その他の情景では、かろうじて現在もそのころの趣は残っている。

しかし、気候変動の影響で、とてつもなく暑い夏から、とてつもなく寒い冬に一足飛びで移行し、秋がなくなるのではないかと本気で心配する人も多い。

日本の四季は残したいものである。

お問い合わせ先: エコパートナーシップうじたわら事務局 (宇治田原町役場 建設環境課内)  
〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

※町役場の移転に伴い事務局の住所も変わりました

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: [junkan@town.ujitawara.lg.jp](mailto:junkan@town.ujitawara.lg.jp)

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場ホームページ「トップ」⇒「環境衛生」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原

